

令和4年10月17日  
(2022年)

保護者の皆さまへ

吹田市立南千里中学校  
校長 羽間 博子

### 令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

#### 1、教科に関する調査結果の分析

##### 【国語】

##### (1) 概要

本校生徒の平均正答率はすべての設問について全国値を上回る。

##### (2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

##### ○話すこと・聞くこと

(成果)・正答率が高く全国値を上回っている。

・特に聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫するについては無解答もなく、正答率も高かった。

(課題)・自分の考えをわかりやすく伝えるように表現を工夫して話すについて無解答率が他と比べると一番高く、また、正答率も低い

##### ○書くこと

(成果)・正答率が高く全国値を上回っている。

(課題)・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことについて全国も正答率が低い、我が校も同様に低い。

○読むこと

(成果)・概ね良好な結果で、読む力の定着が見られる。

・場面と場面、場面と描写などを結びつけて、内容を解釈するが正答率高い。

(課題)・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることが、若干正答率が低い。

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(成果)・正答率が高く全国値を上回っている

(課題)・行書の特徴を理解するが他と比べて正解率が低い。

(3) 国語科における成果と今後の改善点について

全体的に平均正答率は高く、すべての設問について全国値を上回っている。無解答率も低いが、記述の問題においては他と比べて高くなる傾向がある。

自分の考えをわかりやすく伝えることについて、話すこと、書くことの両分野でさらにその力を高めていく必要がある。そのため相手に伝えるための表現を意識し、根拠を明確にして話す活動、書く活動を多く設ける必要がある。時間的な制約があるが、班単位の活動から個々の発表の機会を増やしていきたい。

書写においては、行書の特徴を意識して書く機会をさらに増やす必要がある。

【数学】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率はすべての設問について全国値を上回る。

(2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

○数と式

(成果)・簡単な連立方程式を解くことはできている。

・問題場面における考察の対象を明確に捉えることはできている。

(課題)・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。

○図形

(成果)・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解することはできている。

・反例の意味を理解している。

(課題)・道筋を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

○関数

- (成果)・与えられた表やグラフから、必要な情報を読み取ることができている。  
(課題)・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

○資料の活用

- (成果)・多数の観察や多数回の施行によって得られる確率の意味を理解することはできている。  
(課題)・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。  
・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ること課題がある。

(3) 数学科における成果と今後の改善点について

全国平均と比較すると、すべての問題において平均正答率が高い。数学的な知識や問題を解く技能は定着していると見受けられる。しかし、その知識や技能を用いて、事柄の理由や問題の解決方法を説明することになると、無回答率が増えると同時に、正答率も減る傾向にある。

今後は、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する活動や、事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動を充実する必要がある。また、データの活用では、ヒストグラムの特徴を比較して読み取り、判断の理由を数学的に説明する活動や、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動を充実する必要がある。

【理科】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率はすべての設問について全国値を上回る。

(2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

「エネルギー」

(成果)・実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験計画を立案することはおおむねできている。

- ・力のはたらきに関する知識及び技能を活用して、物体にはたらく力を説明することができる。

(課題)・力のはたらきに関して、矢印で表すことに課題があるが、全国値を上回っている。

「粒子」

(成果)・状態変化に関する知識の概念的理解はおおむねできており、全国値を大きく上回っている。

- ・分子のモデルで表した図を基に、化学変化を化学反応式で表すことは理解できて

いる。

(課題)・「粒子」を柱とする領域に関する知識及び技能を、身近な現象で活用する学習に課題が見られるが、全国値を上回っている。

「生命」

(成果)・探求の方法について検討し、探求の過程の見通しをもつことはおおむねできており、全国値を大きく上回っている。

(課題)・分類の観点や基準を基に分析して解釈することに課題があるが、全国値をかなり上回っている。

「地球」

(成果)・過去の大地の変動について、垂直方向と水平方向から立体的に検討することはできおり、且つ、全国値を上回っている。

(課題)・継続的に記録した空の様子画像や観測データを天気図と関連付けて、天気の変化を分析して解釈することに課題があるが、全国値を上回っている。

### (3) 理科における成果と課題、指導改善について

正答率が全国値を大きく上回っていることから、基本的な学習については、どの分野もおおむね理解できていることが伺える。さらに問題別にみると、物質の状態変化における概念や、生命の探求に関する分野の理解などで、突出して全国値を上回っていることから、科学的概念の理解や、探究心の啓発的学習において成果があったといえる。

また、無回答率を見ると、文章表記による解答において無回答率が高くなっているが、全国値と比べると大幅に無回答率は低い。このことから本校生徒の解答に対する積極性が伺うことができる。

一方課題としては、正答率はすべての分野で全国値より高いものの、問題別に見ると、全国とほぼ同じ傾向を示している。ゆえに問題別に見た課題として、以下に示す内容があげられる。

- 「粒子」を柱とする領域に関する知識を身近な現象で活用する学習活動の充実。
- 課題を解決するために適切な探求の方法を検討し、探求の過程の見通しをもつ学習活動の充実。
- 実験における複数の観測データを関連付け、その変化を分析して解釈する学習活動の充実。
- 地形や気象データを時間的・空間的な視点で捉え、分析して解釈する学習活動の充実。

## 2. 全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」より

※全国・大阪府とのデータ比較より

### (1) 家庭生活について

- 「朝食を毎日食べていますか」に対する肯定回答は大阪府・全国の値よりも下回っている。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対する肯定回答は大阪府・全国の値よりも上回っているが、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対する肯定回答は、下回っている。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」については、「きちんと守っている・だいたい守っている」が7割近く、「あまり守っていない・守っていない」が1割未満であった。大阪府・全国の値と大差はない。
- 「普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」について、「1時間以上、2時間より少ない」という回答が最も多くみられた。
- 「普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」という設問に対して、「2時間以上、3時間より少ない」という回答が最も多く見られ、1日の視聴時間が「1時間未満」という解答は、全国値をやや上回っている。

### 改善・向上のために

- 朝食をとることの大切さや規則正しい生活習慣を身に着けることの大切さを、保健だより等を活用しながら生徒・家庭に伝えていく
- 今後も携帯電話・スマートフォンの利用について、使い方やルール等、家庭との協力・連携を図っていく。
- デジタルシティズンシップ教育を通して、メディアとどのように接していくことが正しいのか、主体的に考える態度を養っていく。

### (2) 自分自身について

- 「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定回答は大阪府・全国の値よりも上回っている。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定回答は大阪府・全国の値に比べて上回っており、自己有用感が大阪府・全国に比べて高い傾向にあると考えられる。

- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」に対する肯定回答は大阪府・全国の値とほぼ同じであるが、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」に対する肯定回答は大阪府・全国の値に比べてやや上回っている。これにより決断力や、挑戦する心が強いということが分かる。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定回答は大阪府・全国とほぼ同じであり、ほとんどの生徒がいじめは良くないことだと考えている。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対する肯定回答は全国の値に比べてやや下回っており、社会の中での役割を果たそうとする意識に課題がある生徒もいると考えられる。

#### 改善・向上のために

##### □学校として

- 生徒が自分の長所や個性を知ることができ、自分の自信につながるような取り組みを進め、さらなる自己肯定感を育む。
- 個々の生徒の理解に努めるとともに、教育活動全般において一人ひとりの生徒の良さが発揮できるような役割や取組みを、自然にまたは意図的に設定することで、自己有用感を育む。またそこでの生徒一人ひとりの活躍を褒めることで、自尊感情を育む。
- 教科の学習活動や特別活動、総合的な学習の時間において、生徒が主体的に行動・協力し、何かを達成することで、生徒主体の場面を増やし、やりがいや達成感を感じることができるよう取組みや指導を行う。またその際には人が社会の中で果たすべき役割に触れ、その意識を持たせることで、一人でも多くの生徒がその役割を理解し、自ら進んで他者のためにできることに取り組もうとする意識を養う。

##### □家庭として

- 日常生活において、子どもが主体的に活躍できる役割や機会を設け、その活躍を積極的に認め、達成感を感じさせることで、子どもの自尊感情や自己有用感を育む。

### (3)学校生活・学習について

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答が、全国値よりも上回っており、学校に登校することを楽しみにしている生徒が多いことがわかった。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」、「友達と協力するのは楽しいと思いますか」に対する回答はともに全国平均とほぼ同じであり、授業や総合の時間などで今後も活発な意見交換をしていく必要がある。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」、「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目について

も大きく府・全国を上回っており、生徒自身、家庭ともに学習に対しての関心の高さがうかがえる。

- 「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」という項目で、大阪府・全国値に比べ、下回っており、生徒がICT機器を利用する授業が学校としては増えつつあるものの、今後さらに授業におけるICT機器の活用を推進していかなければならない。

#### 改善・向上のために

□学校として

- 生徒が安心できる学校づくりはもとより、総合的な学習の時間をはじめ、すべての教育活動を通して、学級の友達との話し合い活動により、自分の考えを深め広げることや、自分と異なる意見に対して、考え、議論する機会を積極的に設けることにより、違いを豊かさにする学級・学校風土を醸成していくとともに、教職員が校内研修を通して魅力ある学校づくりについての学びを継続していく。
  
- 授業におけるICT機器の活用は、広がりを見せているものの、学校全体として取り組みを進めていく。

### 3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、本校では、個々の学習状況に合わせた「個別最適な学び」や異なる考え方が組み合わさることによって、より良い学びを生み出す「協働的な学び」を追求し、主体的・対話的で深い学びとなる授業の工夫や、学ぶ意欲を高める授業づくりをさらに進めてまいります。また、生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、自分の良さや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り開く力をつけていくために、学校・家庭・地域が手を携えて、生徒の自立と幅広い学習の機会をつくっていきたいと考えています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします